

令和5年度学力向上推進実践報告

伊江村立伊江小学校

1. 目標

児童一人一人の「確かな学力」を向上させ、「生きる力」を育む。

2. 学力向上推進の全体構想図



3. 具体的な取り組み事項

取り組みの重点目標

◎授業改善 ◎主体的・対話的で深い学び ◎身に着けたい力の明確化、指導内容の吟味、指導の工夫

(1) 「確かな学力の向上」の育成を図る取り組み

本校の実態として、基本的な読み・書き・計算の力は向上しつつあるものの、その学年で習得すべき基礎・基本が定着していない児童がいることがあげられる。そこで「学年のたすき」を意識し、確かな学力の定着を図るために以下のような実践を行った。

①伊江島スタンダードを基にした授業内容の統一

・児童の「問い」が生まれる授業に繋がる実践を行うために、授業の流れを揃え、どの学年、どの教科においても児童が安心して授業に臨めるようしている。また、学期に1度 管理職による授業観察を行い、指導助言を行い、授業改善・指導力向上に役立てている。

②校内研「主体的・対話的で深い学びを追求する児童の育成」を目指した授業改善

今年度は、これまで本校が取り組んできた、国語科を中心に授業改善を行った。授業づくりの際には、本県の「授業における基本事項」を常に意識しながら取り組んだ。国語を中心に講師を招聘し、授業作り、授業研究を行い授業改善を行った。

③全国学力テスト・学びの確かめ・ベネッセ・県到達度テストの分析・活用

各種テストの結果を踏まえ、先生方が分析し、児童の課題となる点をどのようにして克服できるのかを話し合。ボトムアップ型の、授業改善や補習、宿題の出し方等の工夫改善を行った。

④個々の児童理解を図り、柔軟な個別支援

今年度は、個別支援の充実を図るために、児童理解、児童の困り感の把握などの研修を行い。児童個々の自己肯定感の高揚や成就感の育成から学習意欲の向上に繋がられるようにした。

⑤朝ドリルと放課後の補習、パワーアップ期間

毎週1回(月曜日)の朝ドリル、放課後の補習時間には、学年の実態にあわせたドリル学習に取り組んでいる。また、11月からは週4回(火～金)のパワーアップ期間を設け、「学びのたしかめ」「到達度調査」を分析した上で、全職員体制で学習のまとめに取組み、基礎的・基本的事項の定着を目指した。

⑥国語辞典の活用

本校の児童は、語彙力・コミュニケーション力に課題がある。そこで国語辞典を教室に常備し、言葉に対する意識を高めてきた。また、普段の授業での活用だけでなく年3回辞書引き会を実施することで、子ども達の辞書引きに対する意欲が向上した。さらに、教科に関わらず、難しい言葉の意味や分からない漢字などを自ら調べようとする意欲がでてきた。

⑦検定試験の活用

漢字検定試験を活用し、既習漢字の定着を図るため3学期に全校児童で試験を行い、学習意欲に繋がられるようにした。

⑧家庭学習の工夫

新年度始めに、全学級家庭学習のオリエンテーションを開き、自主学習の取り組み方を共通確認する場を設け、進んで探求する学習の意義を周知した。また、友達の家庭学習ノートを見合うがんばりノート展覧会を開催し、お手本となる児童のノート掲示をし、家庭学習の意欲向上を図った。

また、「けてぶれ」学習を推進し自学自習の習慣化を図り学力の定着を目指した。

そして、PTA と協力して家庭学習や勉強法についての講師を招聘し、児童、保護者に講演会を行ってもらい、学校・家庭が協力して取り組めるようにした結果、児童の家庭学習定着の増加がみられた。

(2) 豊かな心の育成を図る取り組み

本校では、豊かな心の育成を図る取り組みを充実させるために、地域や様々な方々に関わっていただきながら、いろいろな体験活動に取り組んできた。

①人間関係作りの力を育む異学年交流

縦割り班をかつようして、サツマイモの植え付け・収穫、1年生を迎える会での縦割り班競争、運動会での縦割り班リレー、児童会主催の全校児童・全職員参加の行事の開催した。

②平和学習の取り組み

平和学習の取組において、学年の発達段階に応じたカリキュラムを組み、地域の方々から伊江島での戦争の様子を教わり、平和を願う気持ちを育んだ。

③ポジティブフォーカス月間の取り組み

毎学期1回ずつ、友だちのいい所を伝え合う月間になっています。子どもたちからだけではなく、全職員から子どもたちのいいところがあれば、付箋紙に書いて各自のフォーカスシートに張っていました。

④人権教育

地域の方々や行政と協力して、福祉体験活動や全校道徳の実施、他学校との積極的な交流図る中で人権意識の高揚を図った。

(3) 健やかな体の育成を図る取り組み

① 弁当の日の取り組み

保護者の協力のもと、5・6年生が自分の弁当を作った。「15の島建ち」に向け、自分でできる事は自分でやろうとする態度が育ってきた。

② 歯磨き運動の推進

本校の課題でもある、むし歯予防と治療促進のため、歯科医師による歯磨き指導、週1回のフッ化物洗口、給食後の歯磨き時間の設定をしている。

(4) 自分の将来や生き方を考える指導の充実

<キャリア教育>

3年生から保護者の職場を見学することにより、早い段階から身近な職業に興味を持ち、将来の考える機会として捉え、計画的・継続的に行う。今年度は、感染症対策の為、保護者への職場インタビューを行った。3年生が、職場に電話で連絡をする方法を学習した。

6年生は、ライフプラン授業を通して、働くことの意義や自分自身の将来の夢について考えることができた。また、租税教室では、税金の使い道について学習した。

(5) 基本的な生活習慣の形成を図る取り組み

あいさつ運動、きまりを守る指導、命を大切にする指導は、教育活動全体を通して行っている。

(6) 地域の自然・歴史・文化の重視

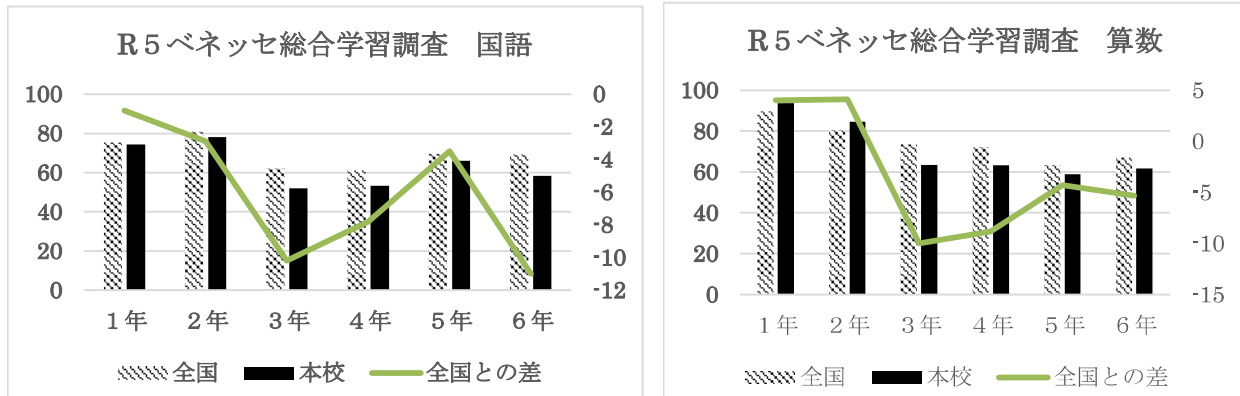
保護者や地域の人材を活用した体験活動や地域の伝統文化の継承を通して、自己有用感や郷土への誇り、感謝の心を育んだ。5年生は、伝統芸能を通して学んだことを伝え合うため、宮城県坂本小学校との伝統芸能交流会を行った。

9. 学力調査からの考察

各種テスト（全国学力・学習状況調査、学びの確かめ、ベネッセ総合学力調査、県到達度テスト）
各質問紙（全国学力・学習調査、小学校児童質問紙調査、ベネッセ学力総合調査）

(1) ベネッセ総合学習調査

国語	1年	2年	3年	4年	5年	6年	算数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
全国	75.3	80.9	62.2	61	69.5	69.3	全国	89.7	80.4	73.5	72.1	63.3	67.1
本校	74.3	78	52	53.2	66	58.3	本校	93.7	84.5	63.5	63.3	59	61.8
全国との差	-1	-2.9	-10.2	-7.8	-3.5	-11	全国との差	4	4.1	-10	-8.8	-4.3	-5.3



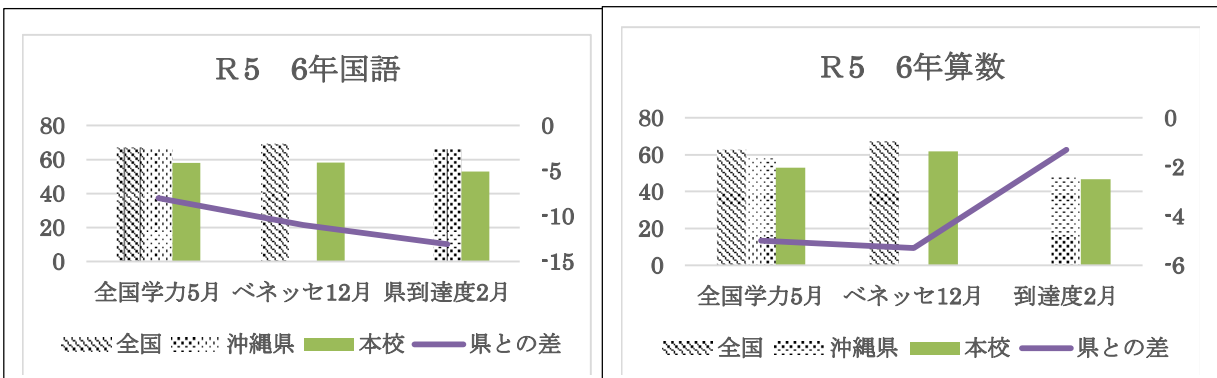
考察

- ・全学年共通で国語「聞くこと・話すこと」「書くこと」、算数「数と計算」は解けていて全国との差がないか、平均を上回っている。
- ・国語「話すこと・聴くこと」「書くこと」、算数「データの活用」「図形」において、ほとんどの学年が前年度より全国との差が縮まっている。課題改善のための手立てが成果として表れてきた。
- ・全学年共通して、国語では「読むこと」、算数「変化と関係」に苦手傾向が見られる。

対策

- ・国語「読むこと」の文章読解と算数「変化の関係」について、授業改善を行う上で読解力を養うための工夫改善を図る必要がある

(2) 6年生各種テスト集計からの考察



国語	全国学力	ベネッセ	県到達度
全国	67.2	69.3	
沖縄県	66		66
本校	58	58.3	52.9
県との差	-8	-11	-13.1

算数	全国学力	ベネッセ	県到達度
全国	62.6	67.1	
沖縄県	58		48.1
本校	53	61.8	46.8
県との差	-5	-5.3	-1.3

国語到達度テスト比較 R4 5 年 R5 6 年 ■■■■ 沖縄県 ■■■■●● 国頭 ■ 本校 — 県との差	算数到達度テスト比較 R4 5 年 R5 6 年 ■■■■ 沖縄県 ■■■■●● 国頭 ■ 本校 — 県との差
成果 ・既習漢字は、どのテストにおいても正答率が高い。これまでの取り組みにより定着していることがわかる。 ・到達度テストは、前年度より県との差が縮まった。 課題 ・「書くこと」では、条件付きでの記述で、条件を活用していない。 ・「読むこと」での心情読み取り苦手である。 改善策 ・読解力の育成を図るための授業改善 ・家庭学習などで「日記」書かせる（書くことに慣れさせる）、音読を入れる。	成果 ・各領域も基礎基本の力は定着している ・学級、児童の課題を把握し、授業改善等行った結果、県との差が縮まった。 ・基礎的な「図形」「測定」できるようになった。 ・到達度テストは、前年度より県との差が縮まった。 課題 ・「データの活用」「変化の関係」について落ち込みがある ・立式はできるが、計算ミスが多い 改善策 ・継続して、問題を解く際に、図や表に表し、立式し計算の確認を日頃の授業から丁寧に行う

（４）各質問紙より

成果

- ・「学習していておもしろい、楽しいと思うことがある」「授業を集中して受けている」が、全学年で全国平均を上回っている。先生方が、児童個々の理解を図りながら授業改善を行った結果だと考えられる。
- ・「学校に行くのは楽しいですか」「先生はあなたの良いところを認めてくれますか」では、どの質問紙においても全国平均・県平均を上回っている。継続して行っている、ポジティブフォーカス月間などの取り組みや、支持的風土のある学級経営を学校全体で取り組んだと考えられる。
- ・「学校の先生が出した宿題をきちんとやり遂げている」「その日のめあてを決めて、授業や家で学習に取り組んでいる」「普段からこつこつ学習している」「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している」は、全学年が全国平均を上回っている。また、前年度と比較しても平均が上回っている。これは、前年度から始めた「けてぶれ」学習の成果だと考えられる。今後も改善しながら継続しく。
- ・「毎日朝食を食べている」が、各質問紙で全国、県平均を上回っている。

課題

- ・「本や新聞を読んでいる」が、ほとんどの学年が全校平均より下回っている。

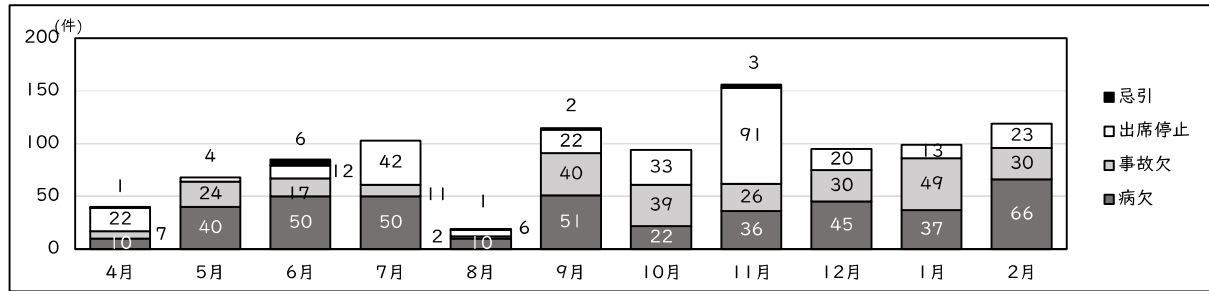
改善策

- ・「読解力」「読むこと」などの平均正答率が、課題としてある。学年に応じた本や時事についての記事などを主体的に読めるような手立てを学校全体で共通理解を図り保固になっていく。
- ・全児童が「学校に行くのが楽しい」と思えるよう、全職員共通理解のもと児童理解を深め、児童や学級に合わせた授業改善や児童が安全・安心にすごせる学級経営に取り組み、家庭・地域との協力・連携を深めるようにしていく。

2.出席状況（令和5年4月～令和6年2月29日）

※5月8日より新型コロナウイルス感染症が5類に移行、
コロナ関連の発熱を出席停止→病欠扱いに変更している。
※前年度とコロナ関連の出席停止の取り扱いが異なるため、
前年度との比較なし。

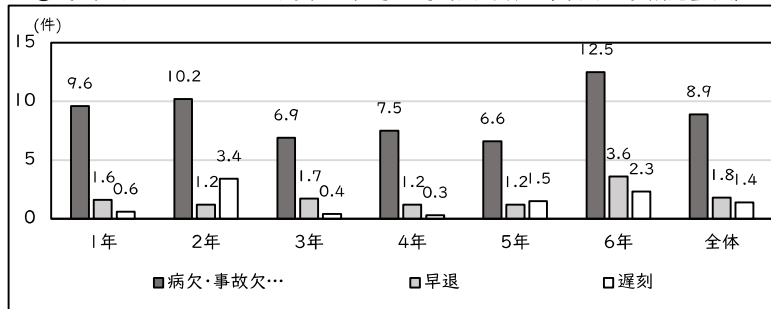
（1）月別 欠席数（件）



（2）学年別 欠席、早退、遅刻数（件）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
病欠・事故欠 出席・忌引	191	184	97	172	86	263	993
早退	31	22	24	27	16	76	196
遅刻	11	61	6	7	19	48	152

① 学年別 1人当たりの欠席、早退、遅刻数（件）〈件数÷学級児童数〉



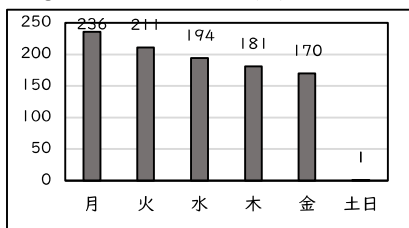
※学年に人数差があるため、「1人当たりの数」も出しています。

○ 伊江小学校の出席状況について ○

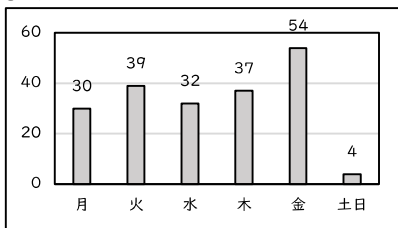
- ・7月、11月にインフルエンザの流行により、出席停止が多く発生している。
- ・月曜日は、私用のため欠席や9時便で戻る早退が多かった。
- ・9月～現在、保健室登校が1名いる。
- ・週3回登校、3校時早退で本人のペースで登校。学級担任、管理職、養護教諭が対応。村相談員やUTT等と繋いでいる。

（3）曜日別欠席者数（件）

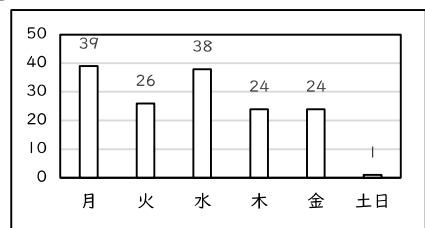
① 病欠、事故欠、出席停止、忌引



② 早退



③ 遅刻



（4）主な理由（件）

欠席 (病欠、事故欠、忌引)	事故欠	体調不良等	発熱	登校しぶり	通院・受診	頭痛・腹痛	忌引
609	162	142	90	83	82	37	13

【体調不良等】
喉の痛み、咳、
気分不良等

出席停止	コロナ関連 発熱等	コロナ	インフル エンザ	溶連菌 感染症	その他
288	21	33	201	19	14

【その他】
流行性角結膜炎：6件(1名)
感染性胃腸炎：9件(2名)
(出席停止日数で表した)

※溶連菌感染症に罹患しやすい児童が3名いる。

早退	私用、法事	登校しぶり	発熱	体調不良等	頭痛・腹痛	通院・受診	ケガ
195	38	42	35	31	26	15	8

【体調不良等】
気分不良、
嘔吐、咳等

※保健室登校の児童1名が3校時で早退している。

遅刻	登校しぶり	私用、法事	通院・受診	身支度	寝坊	体調不良
153	48	29	30	22	14	10

【身支度】
自分のペースでゆっくり登校し
たい児童の件数。

※登校しぶりで遅刻のある児童が1名いる。保健室に登校し、気持ちを落ち着けて学級へ行っている。

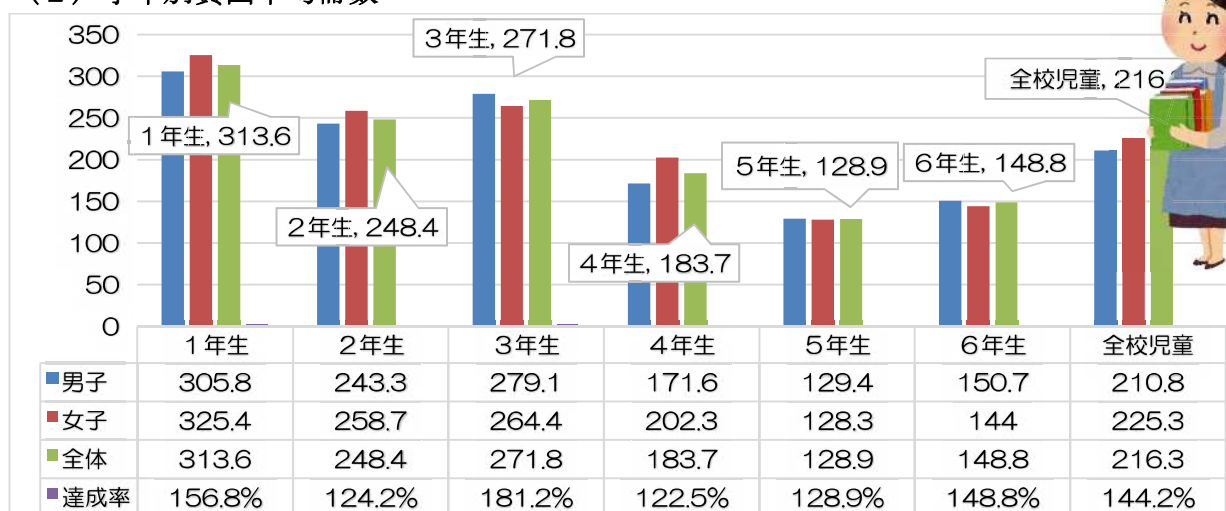
【図書館運営】

＝令和5年4月12日～令和6年2月22日までの統計＝

(1) 学年別貸出統計

学年	貸出冊数合計		貸出平均冊数				年間目標冊数
	男	女	男平均	女平均	全体平均	達成率	
1年	3,669	2,603	305.8	325.4	313.6	156.8%	200
2年	2,919	1,552	243.3	258.7	248.4	124.2%	
3年	1,954	1,851	279.1	264.4	271.8	181.2%	150
4年	2,403	1,821	171.6	202.3	183.7	122.5%	
5年	906	770	129.4	128.3	128.9	128.9%	100
6年	2,261	864	150.7	144.0	148.8	148.8%	
全体	14,112	9,461	210.6	225.3	216.3	144.2%	全体平均 150

(2) 学年別貸出平均冊数



(3) 年間目標冊数達成状況

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
在籍人数	20名	18名	14名	23名	13名	21名	109名
目標冊数	200冊		150冊		100冊		
達成人数	20名	18名	14名	23名	13名	21名	109名
達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%